さいたま市長１１月定例記者会見

平成２５年１１月７日（木曜日）

午前１１時００分開会

○　進　　行　　定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブ幹事社の時事通信社さん、進行をよろしくお願いします。

○　時事通信　　おはようございます。１１月の幹事社を務めます時事通信と申します。よろしくお願いします。

それでは、本日の会見内容について、市長から説明をお願いいたします。

○　市　　長　　皆さん、こんにちは。先月後半から今月前半にかけて、さいたまクリテリウムｂｙツールドフランスをはじめ、市内の各区で区民まつりなど盛大なイベントが開催されております。まさにイベントの秋です。

先週末は、浦和区と南区の区民まつりと岩槻区の人形供養祭と鷹狩り行列に行ってまいりました。どこの会場も大変盛況でございまして、若者からお年寄りまでたくさんの市民の皆さんが思い思いにイベントを楽しんでいらっしゃいました。大都市の住民は地域への愛着が薄いと言われておりますが、区民まつりなどのにぎわいを見ますと、さいたま市では地域を愛する市民が非常に多いと思っております。

今週は、本日これから若田宇宙飛行士の宇宙船ソユーズ打ち上げカウントダウンイベントなどがあり、明日からはコラボさいたま２０１３、今週末には西区、見沼区、中央区、桜区で市民祭りなどのイベントが目白押しで予定されております。

各イベントでは、さまざまな工夫を凝らして市民の皆さんのご来場をお待ちしております。この機会にぜひ地域の人たちと一緒にイベントを楽しんで、地域の絆を感じていただきたいと思います。

市長発表：

議題　目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクトについて

それでは、本日の議題に移らせていただきます。

本日の議題でありますが、「目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクト」でございます。

まず、このプロジェクトの目的でございますけれども、１つ目が、市民、団体、事業者等の皆さんと行政の地域社会の多様な主体とかかわりによりまして、見沼田んぼをステージに、見沼代用水西縁・東縁を結び「日本一の桜回廊」をつくるということであります。

そして、２つ目が、桜に囲まれた自然環境豊かな魅力ある都市空間づくりを推進し、地域の活性化につなげていくというものであります。

それでは、まず見沼田んぼエリアの桜の現状についてお話をしたいと思います。

しあわせ倍増プランの素案などでは、桜並木の距離は約１７キロメートルという表記がございますが、今年の８月に現地の調査をいたしました結果がここにある表のとおりでございまして、用水沿い桜並木の距離は、まず西縁では１１．１キロメートル、桜の本数は９９３本、また東縁では６．３キロメートル、桜の本数は６９３本、そして見沼通船堀の付近では、０．８キロメートル、１２７本、合計で１８．２キロメートル、１，８１３本という結果が出ました。たくさんの桜があることがわかりました。

見沼田んぼ周辺では、桜百選にも選ばれております大宮公園、大宮第２公園、見沼自然公園など、桜が多く植えられている公園があり、また学校などもございまして、本数では約５，０００本弱の桜が植えられていることがわかりました。

大原中学校から大宮第３公園の区間、このいわゆる新都心に近い場所でございますけれども、ここで一部桜並木が途切れている区間がございます。ここをまず重点区間として整備をしていきたいと考えております。

次に、このプロジェクトの概要でございます。５年間と言っておりますが、５年以内で、かなり早い時期に達成ができるんではないかと考えておりますけれども、総延長２０キロメートル超の日本一の桜回廊を目指すというものであります。

市民、団体、事業者等からの寄附による植樹を基本として進めていきたいと考えております。

「目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクト実行委員会」を設

置して進めてまいります。

植樹祭を行うとともに、桜の拠点を創出をし、まちづくりと一体性を持った桜回廊づくりを目指していこうというものであります。

この実行委員会でございますけれども、まず第１回目の実行委員会を明日、１１月の８日に浦和コミュニティセンターで開催をする予定でございます。

市側の出席者は、私と技監、経済局長、都市局長、それから建設局長。また、見沼田んぼにかかる区の区長でございます北区長、大宮区長、見沼区長、浦和区長、緑区長ということでございます。

また、関係機関としては、さいたま市公園緑地協会、さいたま観光国際協会、埼玉県、そして水資源機構利根導水総合事業所、それから見沼代用水土地改良区の５団体でございます。

さらに農業者団体として、さいたま農業協同組合、美園地区観光農業推進ネットワーク、そして見沼田圃地権者の会の３団体。

また、経済団体としましては、国際ロータリークラブ第２７７０地区の第１グループ及び第３グループ、また公益社団法人埼玉中央青年会議所、さいたま市造園業協会、さいたま商工会議所、ライオンズクラブ環境保全・地域社会文化委員会の６団体。

また、市民団体・自治会等としまして、明日のさいたまを作る会、ガッツ見沼実行委員会、さいたま市自治会連合会、さいたま市子ども会育成連絡協議会、さいたま市ＰＴＡ協議会、見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワークの６団体でございます。

また、一般企業では、ＡＧＳ株式会社、浦和レッドダイヤモンズ、大宮アルディージャ、国際興業株式会社さいたま東営業所、埼玉トヨペット株式会社、埼玉りそな銀行、首都高速道路株式会社西東京管理局、株式会社タムロン、株式会社東京電力さいたま支社、東武バスウエスト株式会社岩槻営業所、東武鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社大宮支社、株式会社武蔵野銀行など１３社が委員として参加をいただくことになっております。

多くの団体、企業にこのプロジェクトにご賛同いただき、全部で３３の団体、そして企業がこの実行委員会に参加していただくこととなりました。

今後のスケジュールについてでございますけれども、１１月８日から植樹の申し出の受け付けを行ってまいります。

受け付け後、植樹場所や時期について実行委員会事務局が関係機関と調整を行って、植樹申し出者と協議をしながら進めてまいります。

先ほどの概要説明にもあったように、植樹祭を行って、桜の拠点も創出し、まちづくりと一体となった整備を行ってまいります。

平成２５年度の植樹祭につきましては、日時としては平成２６年３月２９日、土曜日を予定しております。場所は、見沼区東宮下の七里総合公園北側の埼玉県の公有地をお借りして、実施をさせていただく予定であります。

また、同日には「見沼クリーンウォーク」も行う予定となっております。また、このときにさいたマーチ、見沼ツーデーウォークも開催をされる予定となっております。

最後に、この桜回廊がもたらすものでございますが、日本一の桜回廊と、さいたま市として誇れるものができることはもちろんのこと、市民の憩いの場が形成されるとともに、市民の絆の強化や、日本一の桜回廊をみんなでつくるということで、地域への愛着、また“誇り”の形成につながっていくものであると考えております。

私からは以上です。

○　**時事通信**　ありがとうございました。発表事項について質問のある社はお願いします。よろしいでしょうか。

議題に関する質問

○　**市　　長**　はい、どうぞ。

○　**読売新聞**　読売新聞です。何点か細かい点お伺いします。

２０キロに延長された場合、桜の本数は何本になるのかという点と、現在の日本一というのは、どの、どんなところにあるのか、そういう点とですね、あとこれ寄附で集めてやりたいということなんですけども、事業費というのはどのくらいを見込んでいるのか、その３点をお伺いしたいと思いますが。

○　**市　　長**　まず、私が答えられるところから先に。

現在の日本一については、この日本一の定義、いろいろ、必ずしも明確になっていないところがございますけれども、桜並木の長さということで公益財団法人のさくらの会でお話を聞きますと、青森県弘前市の岩木山麓の県道周辺の２０キロメートルの桜並木が世界一の桜並木と称されているそうでありまして、これを超えれば日本一になるんではないかと認識をしているということでございます。

それから、２０キロに到達すると何本になるかと、その事業費ということについては、担当から話をさせてもらいます。

○　事務局　　見沼田圃政策推進室でございます。

質問の１つ目の２０キロの場合、何本なのかというところなんですが、おおむねですけれども、大体１０メーターピッチで植えていますので、おおむね２，０００本程度、これ目安ですけれども、このぐらいになろうかと思います。

それから、事業費ですけれども、今回しあわせ倍増プラン２０１３のほうで挙げさせていただいている期間の事業費としては、約３億円程度と見込んでおります。

以上でございます。

○　読売新聞　　ありがとうございました。

○テレビ埼玉　　テレビ埼玉ですけれど、よろしいですか。

○　市　　長　　はい。

○テレビ埼玉　　これ日本一というのは、イコール世界一になるということなんですけれども、仮に達成した場合にですね、ギネスブックとかに申請をするとか、そういう予定とか野望というものはあるんですか。

○　市　　長　　そうですね。恐らく定義の問題がちょっと難しいと思っていますけれども、例えば登録ができるものなのかどうかということは、今後検討していきたいと思います。特に世界ということになると、なかなか現実にきちっと調査をしているところがあるのかどうかというところもありますので、もちろんできるものであればしたいと思いますけれども、検討はしていきたいと思います。

幹事社質問：
（１） 市の防災について
（２） 全国学力テストについて
（３） さいたまクリテリウムｂｙツールドフランスの総括について

○ 時事通信　よろしいでしょうか。

では、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いいたします。

１点目が防災についてです。局地的に記録的な大雨が降って、災害の発生が迫る状況になった場合に、気象庁が市町村の首長や防災担当幹部に直接電話して、避難勧告や指示を促すことを決めました。これについて市長のご見解を伺わせてください。

また、市の防災の連絡体制、課題があればあわせて教えてください。

２点目が学力テストについてです。文科省が平成２６年度の全国学力テストから自治体の判断に任せて学校別の結果を公表できる方向で検討していますが、市長の見解をお聞かせください。

３点目がさいたまクリテリウムｂｙツールドフランスについてです。全体の総括並びに観客数約２０万人ということですが、その内訳と、当初４７億円と見込んでいた経済波及効果、また市の補正予算の計上予定についてもお聞かせください。３点お願いします。

○ 市　　長　それでは、幹事社からの質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、防災についての質問についてお答えをさせていただきたいと思います。

まず、大島町で被災をされた方々に心からお悔やみを申し上げたいと思います。

本市では、平時から私や副市長のいずれかは市内に残るように、公務及びプライベートなスケジュールを調整してございます。あわせて危機管理監、また危機管理部長も同様にさせていただいております。

また、直ちに連絡がとり合えるように、幹部職員には公用の携帯電話を配付するとともに、市庁舎には当直者、また区役所には警備員を配置して、

夜間、そして休日の緊急連絡に対応しているところでございます。

あわせて、本市の防災計画に基づき、埼玉県南中部に警報が発令された場合には警戒準備態勢、そして本市に警報が発令されると警戒態勢に入り、被害の発生予測や発生状況に応じて、迅速かつ臨機応変に災害警戒本部、また災害対策本部が立ち上げられるように、関係職員の招集体制も現在整えているところであります。

気象庁から私や防災担当者に直接いただく連絡内容の基準については、まだその詳細が示されておりませんけれども、市民の安全安心の確保を図るための避難勧告であるとか、あるいは指示は市の判断によって行われるものでありますので、その連絡内容は大変重要な情報源として期待をいたしております。

また、夜間の避難における二次災害の誘発や繰り返される警報に住民がなれてしまい、「またか」と避難がおくれてしまう場合などを考慮し、避難勧告や避難指示については、発令のタイミングをしっかりと検討していくとともに、市民に対し十分な周知を行っていかなければいけないと考えています。

次に、幹事社質問の２つ目でございます。全国学力・学習状況調査の結果公表の取り扱いについてのご質問にお答えをしたいと思います。

７月に文部科学省が実施をいたしましたアンケートでは、従来どおり学校別の結果については公表しないと回答させていただきました。さいたま市は、ご案内のとおり、さいたま市全体の平均値については公表をさせていただいております。学校別の平均正答率を公表するということによって、学校の過度の競争につながったり、また序列化につながることも一部懸念をされるところでもあり、公表のあり方については、学校に行くのは楽しいかなど、生活に関する調査の結果などを含めて、公表の仕方を工夫していくということも大切であると考えております。

次に、幹事社質問の３でございます。さいたまクリテリウムｂｙツールドフランスの総括についてお答えをしたいと思います。

去る１０月２６日土曜日、さいたま新都心周辺において行われました「さいたまクリテリウムｂｙツールドフランス」につきましては、天候の影響もあり、一部予定を変更しながらも、何とか開催することができました。

幸い午後からは雨も上がって、予定をしておりました２回のポイントレース及びクリテリウムのメインレースを予定どおり行うことができ、会場となりましたさいたま新都心周辺には県内外から２０万人もの観衆が詰めかけるなど、サイクルファンばかりでなく、幅広い世代に楽しんでいただけたのではないかと考えています。

大きな事故もなく、多くの方に世界初の世紀のレースを堪能いただけたものと考えております。また、テレビ中継をはじめ、当日あるいは翌日の報道についても大変多くのメディアに「さいたまクリテリウム」を取り上げていただき、「スポーツ先進都市さいたま市」の名を広く全国に発信できたのではないかと考えております。

観衆の内訳でございますが、コース沿道での観戦者が９万人、けやきひろばのさいたまるしぇに８万人、コミュニティアリーナのサイクルフェスタに３万人、延べ２０万人の動員ができたということでございまして、動員についてはおおむねよかったのではないかと考えております。

さらに、「のびのびシティさいたま市フェア」などのプレイベントや、大宮駅西口、浦和駅東口及び岩槻駅前などのパブリックビューイングなどを合わせると２万人ということでございますので、今大会で本大会とその周辺のものを合わせると２２万人の交流人口を創出したことになります。また、この他にも、関西空港では、当日約２，３００人の方々がお見えいただいたと伺っております。

経済波及効果額につきましては、現在来場者へのアンケートなど基礎調査をもとに、現在鋭意算出中でございまして、数字が確定次第、速やかに発表させていただきたいと思っております。

また、来場者アンケートの途中報告によりますと、さいたま市外からの観戦者が約６割以上にも上るとの報告を受けておりまして、本市にとっては効果的な集客ができたと考えております。

季節はずれの台風の影響によりまして、当初目標の３０万人は達成できなかったものの、メインレース以外にも、さいたまるしぇやサイクルフェスタ、さらにはサテライトイベントなどの周辺催事を組み合わせたことによりまして、大きな地域経済の活性化を図ることができたのではないかと考えております。

補正予算の予定につきましては、オフィシャルサポーターなどの小口協賛、またオフィシャルグッズの売り上げといった収入が引き続き入ってくること、また大会経費についても現在精算中でございますので、この決算見込みの作成を現在急いでいるところでございます。

協賛金につきましては、おかげさまで最後の追い上げなどもありまして、おおむね当初の目標どおり、目標を超えられるということになったようでございます。また、もう一方で為替変動による影響、また初めての大会であるということからも、安全確保を最重点に警備体制を強化したことにより、経費増も見込まれるため、今後決算見込み等を踏まえて、しかるべき時期に補正予算をお願いしたいと考えているところでございます。

いずれにしましても、高層ビルを背景に目の前を矢のように走り抜ける選手に、観客はウエーブや拍手で盛り上げるなど、ツールドフランスの名にふさわしい大会となって、フランスの夢と感動を「さいたま」で実現ができたのではないかと考えています。

自転車関連ブースなどが出展をしました「サイクルフェスタ」がさいたまスーパーアリーナで開かれたほか、けやきひろばではフランスと地元の飲食を集めました「さいたまるしぇ」が行われるなど、競技だけではなく、まちそのものが醸し出すお祭りムードを多くの方々に楽しんでいただけたのではないかと思っています。

特に、テレビ中継の映像の中で、再放送を私も何度も見せていただきましたが、子供たちが目を輝かせて見ている、このシーンが大変印象的でありました。未来に向けた夢と希望をもたらすことができたのではないかと思います。

さらには、自転車関連産業の活性化、また経済波及効果も大いに期待できるとともに、多くのメディアを通じまして本市を広くアピールできたものと考えています。

一方で、運営経費の問題、あるいは組織・運営体制、あるいは大会ＰＲなど、反省点、あるいは課題なども残りましたが、スポーツ先進都市としての本市のブランディングの構築など、何物にもかえがたい貴重な経験となったのではないかと思っております。

これらの反省点を踏まえ、市民の皆さんにとって誇りとなるようなイベ

ントとすべく、今後継続開催に向けて、関係機関、関係団体等と協議を進めていきたいと考えております。

以上です。

幹事社質問に関する質問

○　時事通信　　ありがとうございました。代表質問に関連して質問がある方は、お願いします。

○　朝日新聞　　今のツールドフランス、クリテリウムのことなんですけれども、当初３月の締結式のときにですね、ツールドフランスの雰囲気をそのまま持ってくるというような話、それ以外でも何度も言われているんですが、今回レースを見ている、レースというか、今回の大会を見ている限りですね、マイヨというジャージを着ているところは、ツールそのままかもしれませんけど、雰囲気がそのまま来たという感じがしなかったですが、そこら辺は市長としてはどうお考えでしょうか。

○　市　　長　　そうですね。それぞれツールドフランスにどういうイメージを持っていらっしゃるかによっても多分違うとは思うんですけれども、私自身はツールドフランスは１つは国際的な自転車レースであるという、世界のトップレベルの選手が間近で見られる世界最高峰のレースであるという視点と、もう一つは、単にそういった自転車レースを行うだけではなくて、地域を活性化をする一つのお祭り的なイベントであると考えております。もちろん見た印象とか、雰囲気そのものが全くツールドフランスのイメージそのものがそこに来られたかというと、多分それはそれぞれツールドフランスに対するイメージであるとか感じ方によって若干違いはあるとは思いますけれども、そういう意味では１００点とは言えないとは思っております。まだ課題もたくさんあると思いますけれども、そういったメインの目的はある程度達成ができたのかなと思っております。

○　朝日新聞　　例えば選手の交流がもっとあってもいいんじゃないかとかですね。

○　市　　長　　そうですね。そういう意味では、工夫する余地はたくさんあると思いますけれども、でもかなり選手とサインをしたり、ハイタッチをしたり、あるいは中には、後半、選手のほうと抱きついたりというようなことがあったりとか、そういう意味では普通の国際的なスポーツイベントと比べると、

ほかの競技と比べるとかなり選手との交流とか接点というのは大きかったんではないかと私は思っています。ただ、やはりもっとということで、そういう意味ではツールドフランスもコースぎりぎりのところまでお客さんが来て、生でその迫力を感じていったり触れ合うという意味では、もっとそれを進ませるということは可能だと思っておりますし、選手たちもそういうサービス精神を持っている選手たちがたくさんいらっしゃるということもあるので、今後さらに工夫して、やはり選手と身近に触れ合えるということは、この自転車レースの魅力の大きなものの一つだろうと思いますので、そういった工夫はこれから、まだ継続について正式に決定したわけではありませんが、来年度以降、開催する場合にはそういったことにも十分、さらに配慮をしていきたいと思っています。

○　朝日新聞　　あとですね、関係者の中からもなんですが、先ほど市長のほうからも出たんですけど、運営面についてですね、レースのほうはほぼ成功のほうだけども、運営面でかなり未熟な部分が多くてという話が多くてですね、市長はそこら辺をどのように認識されていて、来年どうやって生かしていこうと……

○　市　　長　　そうですね、運営面については、今回初めてのチャレンジということもあって、体制、かかわった人数であるとか、あるいはその組織体制、連携関係等々含めて、必ずしも十分ではなかったと認識しておりますし、やはりもう少しその体制の整備であるとか、そういった連携といったものの強化をしていく、その運営体制のあり方ということをもう一回見直しをしていくということは、非常に必要だと思っております。その辺での反省点は、小さなことも含めてかなりあると思っています。ですから、その辺は今私たちもかかわった人たちで、あるいはいろんな声を聞いたりもしていますから、そういったものをやはりある程度まとめながら、次にどういうふうにつなげていくのかということを十分に把握した上で対応していくことが必要だと思っておりますし、そういう意味ではやはり課題があったというのは確かだろうと思います。

○　朝日新聞　　来年の開催のことなんですけど、一部報道でですね、ＡＳＯと市長がもう合意をしたということを明らかにしたという話もあったんですが、それの真実はどうなんですか。

○　市　　長　　継続の方向性については、ＡＳＯの社長さんとは、ぜひ継続をしたいというお話を私自身はさせていただき、またおおむねそういう方向でという漠然としたものでは方向性、ご理解をいただいているという状況だろうと思いますが、ただ、もちろんやる上には関係機関、あるいは議会の皆さん、いろんなまだご理解と、その協議をしていかなくてはいけない部分もあろうかと思いますので、そういったことも十分対応していきながら決定をして、次回開催ができるように進めていければと思っています。

○　朝日新聞　　合意はしていないんですね、まだ、そうすると。

○　市　　長　　方向性の合意というか、また継続してやりましょうという意味での合意は、口頭レベルの合意はしております。ただ、こういったものはやはり契約とか、そういったいわゆるビジネスでもありますので、そういったものにはまだ当然至っていないと、当然正式に実行するということになれば、そういった契約書であったり合意を交わさなくてはいけないということになろうかと思いますので、そこまでは至っていないということです。

○　朝日新聞　　私から最後なんですが、ＡＳＯの評価が、何かある程度、今大会に対して出ているというううわさも聞いたんですけども、そこら辺の情報ってどうなって……

○　市　　長　　そうですね、基本的にはどういうふうに言っているかはちょっとわかりませんけれども、大会の後、アモリ社長や幹部の方ともお話を少しさせていただく時間もありましたので、いろいろ聞かせていただきましたけれども、非常におおむね、ＡＳＯとしてはよかったのではないかという評価をしていただいていると思っております。

○　朝日新聞　　ありがとうございます。

○日本経済新聞　　日本経済新聞でございます。

ツールドフランスに関連してですが、スポーツコミッションでスポーツ大会の誘致というのを掲げた、その象徴になる大会だったということだと思いますが、日本のメディアだけじゃなくて、フランスの新聞ル・モンドをはじめ、英文、仏文の媒体でかなりさいたまクリテリウムが報じられているものを拝見いたしましたけど、今後のスポーツ大会の誘致に向けてさいたまクリテリウムがどのぐらいプラスの押し上げ評価に貢献してくるか、市長のご見解あればいただければと思います。

○　市　　長　　今回の映像についても、すぐに長い番組として放映されたりしている国もありますし、そうでなくて部分的にというのもありますけれど、１３０カ国に配信をされているという状況もありますし、またあわせて今回も、前日の記者会見も含めて、３分の１近い方々が外国人の方々、メディアの方々が来ていただいたと、それで今お話があったように、さらに外国の新聞にも取り上げていただいたということで、私たちにとっては、さいたま市の都市イメージを発信するには大変大きな効果があったと思っておりますし、ツールドフランスをずっと取材されている山口さんというジャーナリストの言葉を借りれば、これを数年続ければ東京に次ぐ知名度にさいたま市がなるのではないかと発言をされていますけれども、私たちもそういったぐらいにさいたま市を知っていただける価値のある大会であると認識をしています。

○　毎日新聞　　毎日新聞です。

次年度以降のツールドフランスの開催について、先ほど漠然とそういった継続の方向性というお話はしているということだったんですが、これは大会後ですか、それとも事前に、基本的には複数年やっていくというお話はあったと思うんですけど、それを指していらっしゃるのか、あるいは大会後も改めてそういう話をされたのか。

○　市　　長　　まずは、大会前も記者会見等でもお答えしていますけれども、私たちとしては１回の単発のイベントで終わると、なかなかやはりそのイメージ発信とか、そういった大会での効果が必ずしも１回だけでは出ないんではないかという思いがありますので、できれば継続的にやっていきたいという思いを持って進めてきました。そういったことについては、ＡＳＯ側にもいろんな形でお伝えをしてきた部分もあると思います。

それで、大会後についても、試合の直後に私も社長、ＡＳＯのアモリ社長とはお話をさせていただいて、そういう意味では継続をする方向性については、非常にご理解をいただいていると。それで、細かいことについては今後事務的に詰めていく必要、していきましょうというお話もさせていただいておりますし、あとは今後、もちろん実施するには、ＡＳＯとの合意が大前提になりますけれども、それだけではなくて、やはり関係機関との調整などもありますので、そういったことを踏まえながら、私たちとし

てはできるだけ継続的にやれるように、例えば来年でまた終わりとかということではなくて、やはり複数年でやれるようにはしていきたいと思っておりますけれども、ただ、どうしても地方自治体ですので、複数年契約をするというようなことは、なかなかちょっとこれはやはり難しいところもありますので、そういうことを前提にしながら、毎年進めていければと思っております。

○　毎日新聞　　ＡＳＯ側との正式な契約というのは、いつごろまでにできれば準備の面で望ましいというふうに市長お考えでしょうか。

○　市　　長　　そうですね、本当であれば、早くそういうことができれば一番、準備をするという観点では非常にやりやすいんですけれども、どうしてもやはり予算との絡みがあったりしますし、あと関係機関とか、幾つか細かい部分もありますので、そういった部分をクリアしていかなくてはいけないところがありますので、私たちとしてはできるだけ早くという思いはありますけれども、契約ということになると、やはり予算成立後、予算が成立してからでないとなかなか難しいのかと、正式契約ということでは。

○　毎日新聞　　そうすると、今年度末ごろを目途ということでしょうか。

○　市　　長　　そうですね、そういう形になるのだろうと思います。

あとは、正式な契約ではなくても、その前に何らかの文書を取り交わしてやっていくという形もできなくはないのだろうとは思いますけれども、正式な契約ということになると、やはり予算成立後ということが前提になるのだろうと思います。

○　毎日新聞　　わかりました。ありがとうございます。

○　朝日新聞　　今の件なんですけど、予算成立後ですと今回と一緒でですね、また準備が遅れてしまうんじゃないかという懸念があると思うんですよね。そうすると、少なくとも関係者によっては、もう今年中に合意をしてですね、来年の早々にもスタートしないと、また今回のような運営面で問題が出たりということありますけど、そこはどうなんでしょう。

○　市　　長　　そうですね。ですから、予算措置を当然やはりしないと契約はできないと思いますので、ですからそういう本契約、できるだけ早目にその合意ができるようであれば、関係機関との調整も大方前提に、それができるようであれば、それに正式な契約という前段階の何らかの合意文書みたいなも

のも含めて、準備をスタートしやすい環境づくりはしていかなくてはいけないと、今回よりも少し早目にスタートができるようにしていかなければいけないなと思っています。

また、もう一つは、今回初めてやりましたので、大体このツールドフランスがどのぐらいの動員力を持っているのかとか、どのぐらいの選手が来るかとか、どういった注目度になるのだろうかと、多分多くの日本の企業も含めて、私たちも含めてですけれども、必ずしも十分な認識ではなかったような気がしますけれども、それが今回１回目をやらせていただいて、やはり約２０万人の、新都心、恐らくはじまって以来の人出ではなかったかと思いますけれども、あれだけの観客の方々が悪天候にもかかわらずいらしたということであるとか、あるいはそういった海外のメディアでも多く取り上げていただいているとか、あるいは国内のメディアでもいろいろ取り上げていただいているとかということが、やはり一つ実績として残りましたので、そういう意味では、前回よりは少し早目に動き出せるようにしていきたいと思っております。ただ、基本的にはやはりそういった手続的な部分もございますので、正式なものとしてはどうしてもそういう形になるのかとは思っておりますけれども。ただ、少し早目にスタートができる方法がないかということも含めて、いろいろ検討していきたいと思います。

○　読売新聞　　さいたまクリテリウムに関してなんですけども、ボランティアの方が６００人ぐらい、今回支えてもらったと。今後スポーツのまちづくりを掲げる上では、そうしたスポーツボランティアの方の力というのは大きくなると思うんですけども、今回そのスポーツボランティアに対して、例えば雨具が行き渡らなかったりとか、受け付けに時間がかかったりしたという点で、ちょっとぞんざいな扱いもあったりしたと思います。あと、今回手伝ってくれた方を放さないというか、登録制度の充実ですとか、そういった意味で将来的にスポーツボランティアの育成などについてはどのように考えていらっしゃいますか。

○　市　　長　　今のご質問ですけれども、非常にスポーツボランティア、まさにスポーツのまちさいたま市をつくる上では、大変重要なテーマだと思っています。スポーツのまちづくり計画の中でも、支えるという部分でスポーツボラン

ティアの充実ということを私たちも掲げていますし、以前ちょうどスポーツコミッションの、全米で最初にスタートとしたと言われているインディアナポリスへ行ったときにも、多くのスポーツ大会を誘致するための一つのポイントは、スポーツボランティアをいかに確保できるかということもその要因の一つであるというお言葉をいただいたことがございます。そういう意味では、このスポーツボランティアを育成し、また多くの方々に、それだけではなくて、スポーツは見るという、あるいは支えるというかかわり方も私はできると思っておりますので、そういう意味では、登録をさせていただいたり、また通常からも自転車だけではなくて、浦和レッズ、あるいは大宮アルディージャのサポーターの方々もいらっしゃいますので、そういった方々も含めて多くの皆さんにご協力をいただいて、こういったスポーツボランティアというものを、より一層拡充していきたいと思っております。ただ、今回はご指摘のように十分な、必ずしも対応ができなかったということについては、それも今後の反省材料の一つだろうと思います。

○　読売新聞　　今その登録制度みたいなものというのはあるんでしょうか、常時的な。

○　市　　長　　登録制度としてはあると思います。ただ、恐らくいろんな形のアプローチが必ずしも十分でない部分もあると思います。これも目標の数値を、人数の目標を掲げて取り組んでいるかと思いますので、詳しい状況については後ほどまた所管からお答えをさせていただきたいと思います。

○　読売新聞　　ありがとうございました。

その他：山本太郎参議院議員の件について

○　時事通信　　よろしいでしょうか。

では、代表質問以外に質問のある方はお願いします。

園遊会のことで各紙話題になっていますけでも、山本太郎参議院議員が天皇陛下に手紙を直接手渡されたということで、いろんなところから批判や意見が出ていますけども、市長としてはこの件どのようにごらんになっていますでしょうか、ご所見を伺わせてください。

○　市　　長　　そうですね、陛下の役割というか、そういったものが憲法で規定をされている部分もございますので、やはり不適切な行動であったと思っており

ますし、失礼な部分もあったのではないかと私は考えています。

○　時事通信　　職を辞するつもりはないというふうにご本人はおっしゃっているそうですけども、処分というか、今後の身の処し方についてはどうあるべきだと思われるでしょうか。

○　市　　長　　その辺は、最終的にはご自分ないしあるいは国会のほうで決定されるものだろうと思いますけれども、やはりある意味では陛下を政治的に活用するということへの印象をぬぐえない行為だと思いますので、問題はあると認識をしています。

○　時事通信　　ありがとうございます。

その他：観光都市への人員、予算強化について

○　埼玉新聞　　埼玉新聞です。

クリテリウムに戻ってしまうんですけれども、今回運営面の課題とかおっしゃっていましたが、僕も感じていたのはですね、そもそも論として、さいたま市がこれまで観光都市じゃなかったということがですね、市を売り出していくことの必要性ですとか、そうしたことの職員意識とか、体制の弱さというのはもともとあった中でのこうしたイベントだったというのがあると思うんです。今後ですね、コストパフォーマンスも考えてですね、そうした人員や体制の強化、また観光都市としての成長に対して市の市税といいますか、市の予算を重点配分していくというような体制で、さいたま市の性格を切りかえていこうというお考えなのかということをちょっとお伺いしたいんですけれど。

○　市　　長　　ちょうど２期目の選挙の際に、７つの成長戦略というのを私自身は訴えさせていただいて、当選をさせていただきました。その１つが国際観光都市戦略ということで、さいたＭＩＣＥということで、特に観光であるとか、あるいはコンベンションというものを充実させようと、またもう一つがスポーツ観光都市というようなことも挙げさせていただいておりまして、この２つはさいたま市、大きな歴史的な資源という意味では余りない都市でありますけれども、ただ私たちが持っている独自の固有の資産、これを使うと、十分に地域の経済を活性化する大きな力を持っていると私は認識をしておりますので、そういう意味ではそういった観光という分野について、

強化をしていくということはしっかりとやっていきたいと、２０１７年に世界盆栽大会が来るということが決定をしておりますし、２０２０年のオリンピックの際にもサッカーの会場となっているということもありますし、そういったこととともあわせて、そういった基盤というんでしょうか、基本的な力を整備していく、おもてなしの力を整備していくということをしっかりやっていくということが必要だと思っております。

○　**時事通信**　　よろしいでしょうか。

では、ありがとうございました。

○　**進　　行**　　以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催につきましては１１月２０日水曜日、１３時３０分からを予定しておりますので、よろしくお願いをいたします。どうもお疲れさまでございました。

午前１１時４４分閉会

※　この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（　　）あるいは「会見後訂正」とし、下線を付しています。